

「神の民の牧者」

ミカ書 第5章 2節～4節  
マタイによる福音書 第2章 1節～6節

説教 岡村 恒牧師

ユダの地ベツレヘムに、救い主がお生まれになるという約束が語られました。この赤ちゃんは全ての民の救い主となったのです。羊を養う羊飼いと、全ての人間を命に導く救い主となるのです。

本日、登場する博士たちは遙か遠く東の地で夜ごと星を見つめ、世界が変わる日を待ちながら生きてきました。そしてこの時、宝物を携えて長い旅をしてエルサレムにやって来ました。この3人の博士たちは、星を見つめる生活の中で人生の転機を迎えたのです。星が現われた意味を発見したのです。そして、人生全体を掛けてしまう様にして財産を処分してきた者もいたかも知れません。生きて家に帰れるかどうか分からない旅に、宝物を携えて出発したのです。これは、地位や名誉を捨てて出掛ける、神の助けによる決断でした。

エルサレムに着いた彼らは、エルサレムの宮殿、ヘロデ王の所に行きました。ヘロデ王は、自分の王位を狙う者を警戒し、自分の生活や財産が奪われるのではないかとこの恐れを抱いてばかりいる王でした。そんな王の所に博士たちがやって来たのです。ヘロデ王は祭司長、律法学者を全員集めます。救い主について、まことの王について何か知っている人を全員集めたのです。そこで、朗読されたのが旧約聖書の預言書、ミカ書の一節でした。ミカ書の預言は、当時からすれば、700年以上前に語られた預言です。ミカはエルサレムの滅亡を預言しながら、救い主の到来を告げました。ダビデ王の町、ベツレヘムに、神の民を救う救い主がお生まれになるとミカは告げていました。この預言の100年後にも、預言者エレミヤがミカの預言を引用して、神の救いの約束について語っています。

この預言に登場する救い主は、〈羊飼い〉として描かれます。羊飼いの重要性は、私たちの想像を超えています。羊の為に羊飼いは歩む道や、飲む水に細心の注意を払います。良い草の事をよく知り、そこに羊たちを導く能力と使命感を持っていなければなりません。羊が生き抜くためには、本当の羊飼いが必要なのです。良い羊飼いは羊の為に命を捨てる、と主イエスご自身がおっしゃった通りです(ヨハネによる福音書 10章1節～18節)。博士たちは、この預言を聞いて、幼な子を拝むためにベツレヘムに向かいました。

本来、「クリスマス」という言葉は、ラテン語の〈キリスト礼拝〉、「Christ(キリスト)+mass(ミサ/礼拝)」を意味しています。キリスト(救い主)を拝む為に、博士たちは旅をして来ました。そしてこのベツレヘムで「キリスト礼拝(クリスマス)」をすることになりました。

ベツレヘム。そこで、全てを変えてしまう出来事が起こったのです。博士たちは星を見てしまい、世界を変える出来事について知らされてしまいました。この出来事が、自分の人生を根底から変えてしまう事を知ったのです。そこで彼らは、ただ星に導かれて、行き先を知らずのまま旅に出ました。やがて博士たちは、飼葉おけの主イエスを拝んで帰路につきます。新しい王、まことの羊飼いを拝んだ者として、飼葉おけの前から踏み出したのです。

私たちもまた、この博士たちと同じ旅路を歩みます。新しい人生を歩んで良いとの知らせを、聞いてしまったからです。もう、幼子を拝む場所に進み出るしかないのです。主イエスの十字架での死と復活とによって、新しい命が与えられる事を知ってしまったのです。この方こそまことの牧者だと、預言者ミカが語っている声を、私たちも聞いたのです。

神との平和(シャーローム)。あなたを造り、活かして下さる方との関係にあって、本当の平安を私たちは頂くことができます。博士たちは、多くの心配をして旅をして来ましたが、報われました。幼子イエスと出会ったからです。来た時には持っていなかった、遙かに良いものをして、元いた場所に戻って行きました。そして、新しい自分として歩み出したのです。主イエス・キリストを拝み、新しく生まれ変わる、本当のクリスマスを迎えたのです。このキリストをひれ伏して拝むなら、神の民の一員として歩み出すことができます。まことの牧者に導かれて、永遠の命を生きる様になるのです。《私たちを3人の博士に加えて下さい。そして、生きる者として下さい。主の羊として捕えて下さい。主の後に従って行く者として下さい。》  
私たちは今日、このように祈ります。

かつて、主イエスはこの地に来て下さいました。そして、私たちをまことの牧者として養って下さる為に、再び来て下さいます。

(記 説教要約奉仕者)